

レンゴー 統合報告書(別冊)

財務データ

2022年3月期

11年間の主要連結財務データ	01
経営者による財政状態および営業成績に関する検討と分析	03
事業等のリスク	05
連結貸借対照表	07
連結損益計算書	09
連結包括利益計算書	10
連結株主資本等変動計算書	11
連結キャッシュ・フロー計算書	12
連結財務諸表注記	13
独立監査人の監査報告書(訳文)	35

11年間の主要連結財務データ

レンゴー株式会社および連結子会社
(2012年3月期～2022年3月期)

	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3
年間 (百万円) :											
売上高	¥ 492,628	¥ 502,625	¥ 523,141	¥ 522,671	¥ 532,534	¥ 545,489	¥ 605,712	¥ 653,107	¥ 683,780	¥ 680,714	¥ 746,926
売上総利益	86,196	88,468	82,606	76,428	87,288	98,586	99,710	111,197	132,461	133,281	135,716
営業利益	25,068	23,890	14,221	5,567	15,727	23,642	17,082	25,292	41,227	39,938	33,279
税金等調整前当期純利益	11,272	25,066	9,687	12,081	16,268	24,186	23,366	25,075	41,090	41,204	41,437
親会社株主に帰属する当期純利益	7,148	12,956	3,702	5,718	9,816	13,876	16,622	17,163	27,790	28,599	28,188
研究開発費	1,541	1,581	1,421	1,405	1,441	1,448	1,483	1,531	1,593	1,900	2,151
減価償却費	27,149	27,898	28,581	29,611	29,333	29,524	30,880	32,259	35,076	38,114	41,723
設備投資	47,741	37,014	52,849	39,982	29,656	30,445	41,527	36,512	38,700	47,143	49,509
EBITDA	52,217	51,789	42,802	35,179	46,454	54,372	49,616	59,028	77,662	80,014	77,193
期末 (百万円) :											
総資産	¥ 549,057	¥ 572,591	¥ 629,054	¥ 655,674	¥ 644,690	¥ 704,826	¥ 747,700	¥ 769,355	¥ 820,109	¥ 869,992	¥ 934,345
運転資本	(46,134)	(30,389)	(40,772)	(34,146)	(36,801)	(24,288)	(23,760)	(10,142)	(3,041)	14,229	39,411
有利子負債	229,443	237,745	263,430	276,906	264,728	283,350	287,322	283,071	323,614	330,645	353,415
純資産	170,931	188,132	201,658	222,390	221,733	241,510	262,580	274,697	288,820	324,463	354,289
自己資本 ^{*1}	164,338	180,733	196,359	216,353	215,962	234,241	255,015	263,948	278,254	313,326	341,909
1株当たり数値 (円) :											
1株当たり当期純利益	¥ 27.74	¥ 50.99	¥ 14.95	¥ 23.09	¥ 39.64	¥ 56.04	¥ 67.14	¥ 69.32	¥ 112.24	¥ 115.51	¥ 113.84
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年間配当額	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	14.00	20.00	24.00	24.00
1株当たり純資産 ^{*2}	637.85	729.53	792.78	873.60	872.17	946.06	1,029.98	1,066.07	1,123.86	1,265.53	1,380.74
比率 :											
自己資本利益率 (%)	4.4	7.5	2.0	2.8	4.5	6.2	6.8	6.6	10.3	9.7	8.6
総資本利益率 (%)	1.4	2.3	0.6	0.9	1.5	2.1	2.3	2.3	3.5	3.4	3.1
D/Eレシオ (倍)	1.40	1.32	1.34	1.28	1.23	1.21	1.13	1.07	1.16	1.06	1.03
自己資本比率 (%)	29.9	31.6	31.2	33.0	33.5	33.2	34.1	34.3	33.9	36.0	36.6
その他のデータ :											
発行済株式数 (千株)	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056	271,056
従業員数 (名)	12,961	13,082	13,095	14,060	13,999	16,038	16,532	16,968	18,902	19,451	20,141
株価 (円) :											
高値	¥ 619	¥ 599	¥ 651	¥ 558	¥ 619	¥ 717	¥ 968	¥ 1,078	¥ 1,071	¥ 1,012	¥ 990
安値	458	311	438	443	459	546	603	787	660	776	730

*1 自己資本=純資産-非支配株主持分

*2 1株当たり純資産の計算における純資産の金額は、連結貸借対照表の純資産の金額より非支配株主持分を控除した金額を使っている。

経営者による財政状態および営業成績に関する検討と分析

概況

2022年3月期におけるレンゴグループは、あらゆる産業の全ての包装ニーズをイノベーションする「ゼネラル・パッケージング・インダストリー」= GPIレンゴとして、営業力の強化、積極的な設備投資やM&A等を通じ、業容拡大と収益力向上に鋭意取り組んでまいりました。

また、世界的な原燃料価格の高騰、補助材料や物流経費の大幅な上昇に対し、徹底したコストダウンにより価格の維持に努めてまいりましたが、自社努力だけでは抗し難い状況となったため、2021年9月出荷分からのセロファン、2022年2月出荷分からの段ボール原紙をはじめとする板紙製品ならびに段ボール製品の価格改定を推し進めるとともに、ポリプロピレンフィルム、軟包装製品についても同様に取り組んでまいりました。

2021年8月、2018年3月末に閉鎖した淀川工場の跡地（大阪市福島区）に、段ボール原紙の新たな物流拠点として淀川流通センターを開設し、倉庫管理システムやトラック誘導システムにITを導入するとともに、無人運転のクランプリフトを採用する等により、物流現場の業務改革の推進を図りました。あわせて、同センター内に中央研究所を移転、共創をコンセプトに施設を一新することにより研究開発体制を強化しました。

9月には、事業再生支援を進めていた大興製紙株式会社（静岡県富士市）を子会社化し、クラフトパルプ、クラフト紙の製造・販売事業に進出しました。

また、2022年1月には関東地区において、ホワイト物流の推進を図るべく、段ボール原紙の新たな物流拠点として八潮第二流通センターを開設しました。

2月、ヒロパックス株式会社（群馬県高崎市）を子会社化したほか、3月には大津製函株式会社（滋賀県大津市）を子会社化し、関東および京滋地区における段ボール事業を強化しました。同じく3月には、製紙機械の設計・開発分野に事業展開する永井鉄工株式会社（兵庫県尼崎市）を子会社化するとともに、軟包装の一貫生産メーカーである株式会社

タキガワ・コーポレーション・ジャパン（千葉県船橋市）を含むグループ会社6社を子会社化し国内外において軟包装事業の製造・販売拠点および製品ラインアップを大幅に拡充しました。

海外におきましては、2021年8月、タイ・コンテナーズグループ社が、同社の子会社を通じてインドネシアの段ボールメーカーの株式を取得し、同国における段ボール事業の拡充を図りました。さらに9月には、ベトナムにおいて、ビナクラフトペーパー社が、同国の旺盛な段ボール需要に対応するため、新たな段ボール原紙生産拠点の建設を決定しました。

ESG経営における環境への取組みは、“Less is more.”をキーワードに掲げる当社グループとして最も優先すべき課題であり、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2021年4月に2030年度を達成年度とする環境目標「エコチャレンジ2030」を策定し、さらに8月にはCO₂排出量削減目標を「2013年度比46%削減」に引き上げました。

この結果、売上高は7,469億円（前期比109.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は282億円（同98.6%）となり、売上高は前期を上回りましたが、利益は前期を下回りました。

なお、2022年3月末の連結子会社数は前期末より3社増の167社、持分法適用関連会社数は前期末と同じく16社となっております。

売上高の状況

売上高は7,469億円で、前期の6,807億円に比べ662億円の増収となりました。これは、連結子会社の増加や加工食品や電気・機械器具向けが堅調に推移したほか、通販・宅配など幅広い分野で需要が好調を維持したことによるものです。

セグメント別では、板紙・紙加工関連事業の売上高は前期比103.7%、軟包装関連事業の売上高は同112.8%、重包装関連事業の売上高は同97.9%、海外関連事業の売上高は同144.0%、その他の事業の売上高は同104.9%となりました。

なお、段ボール箱の販売量については、需要の回復により、同102.6%となりました。

損益の状況

営業費用および営業利益

売上原価は、主に原燃料価格の上昇により、前期の5,474億円に比べ638億円増加して6,112億円となりました。販売費及び一般管理費は、主に人件費の増加により、前期の933億円から91億円増加して1,024億円となりました。

営業利益は333億円で、前期の399億円に比べ66億円の減益となりました。これは、需要が好調を維持したことによる販売量の増加はありましたが、原燃料価格の上昇や固定費の増加の影響が上回ったことによるものです。

その他の収益および費用

その他の収益および費用の収支は、前期の13億円の利益から当期は82億円の利益となりました。当期の主な内訳としては、固定資産売却益や投資有価証券売却益等の収益を計上した一方、固定資産圧縮損や災害による損失等の費用を計上しました。

法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

法人税等は、税金等調整前当期純利益の増加等により、前期の120億円から122億円と、2億円の増加となりました。非支配株主に帰属する当期純利益は、前期の6億円から10億円と、4億円の増加となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は282億円となり、前期の286億円に比べ4億円の減益となりました。1株当たり当期純利益は前期の115円51銭から113円84銭となりました。

なお、年間配当額については、24円といたしました。

財政状態およびキャッシュ・フローの状況

資産の状況

総資産は9,343億円で、前期の8,700億円に比べ643億円の増加となりました。増減の内訳は、流動資産が412億円の増加、有形固定資産が170億円の増加、無形固定資産が4億円の減少、投資その他の資産が65億円の増加となっております。

主な要因といたしましては、受取手形及び売掛金の増加によるものです。

負債および純資産の状況

負債は5,800億円で、主に支払手形及び買掛金の増加や長短借入金増加により、前期の5,455億円に比べ345億円の増加となりました。

有利子負債は3,534億円で、前期の3,306億円に比べ228億円の増加となりました。

純資産は3,543億円で、親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加や、為替レート変動に伴う為替換算調整勘定の増加等により、前期の3,245億円に比べ298億円の増加となりました。

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは579億円となり、前期の660億円に比べ81億円の減少となりました。当期の主な内訳は、税金等調整前当期純利益414億円、減価償却費417億円、法人税等の支払額139億円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは△547億円となり、前期の△460億円に比べ87億円の支出増加となりました。当期の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出462億円、関係会社株式の取得による支出127億円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは19億円となり、前期の△73億円に比べ92億円の収入の増加となりました。当期の主な内訳は、社債の発行による収入200億円、社債の償還による支出103億円、配当金の支払額60億円です。

以上により、現金及び現金同等物は77億円増加して、当期末では578億円となりました。

営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益・EPS



売上高に対する主な費用・利益の比率

	2020/3	2021/3	2022/3
売上原価	80.6	80.4	81.8
販売費及び一般管理費	13.3	13.7	13.7
営業利益	6.0	5.9	4.5
親会社株主に帰属する当期純利益	4.1	4.2	3.8

総資産・自己資本



有利子負債・D/Eレシオ



自己資本利益率・総資本利益率



事業等のリスク

本レポートに記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは以下のとおりです。

1. 製品需要、市況動向

当社グループの主力製品である板紙、段ボール製品は、国内の景気動向の影響を大きく受けます。景気後退による需要の減少、競争の激化等による市況の悪化要因により、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループでは、安定した需要が見込まれる食品向けの受注に加えて、特定業種における需要の減少等の影響を相対的に低減させるべく、幅広い業種の取引先と良好な関係を構築するよう努めるとともに、より付加価値の高いパッケージづくりを通じて、提案型営業を推進することで競争力を高め、リスクの最小化に努めています。

2. 原燃料価格

当社グループの主要原材料である段ボール古紙の価格は、中国をはじめとするアジア地域における需要動向の影響を受けます。国内における需給バランスに変動が生じた場合には、購入価格の上昇によるコスト増加要因となり、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループにおいては、主に都市ガス、LNG、重油、石炭を燃料として利用しています。これらの価格は、国際商品市況の影響を受けるため、市況が上昇した場合には、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループでは、生産性の向上や省資源・省エネルギーに資する設備投資等の実施によって原単位の改善、燃料の多様化に取り組み、リスクの最小化に努めています。

3. 自然災害、疫病

当社グループの製造拠点等が、大規模な地震、台風等の自然災害によって多大な被害を受けた場合、事業活動の中断等

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（2022年3月31日）現在において当社グループが判断したものです。

により、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

また、大規模感染症の流行等によって当社グループの事業活動が中断等を余儀なくされた場合、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループでは、特定の事業所において事業活動の中断等が起こった場合は、全国に展開している製造拠点から製品の供給が行えるよう、供給責任を果たす体制の構築に努めています。

4. 海外事業

当社グループは、中国、東南アジアならびにヨーロッパを成長市場と位置づけ、板紙・紙加工関連事業、軟包装関連事業、重包装関連事業を展開しています。海外進出に対し、当社グループは、リスクを十分に検討した上で投資の意思決定を行っていますが、海外における事業活動については、為替変動リスク、自然災害・疫病等のリスクあるいは国ごとにさまざまな経済的、政治的リスクが存在しており、これらの顕在化により、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループでは、早期に適切な対応が取れるよう、グループ各社や当社の担当部門が適時に情報の収集および共有をし、リスクの最小化に努めています。なお、当連結会計年度の当社グループの海外売上比率は16.6%です。

5. 金利の変動

当社グループの有利子負債は、当連結会計年度末現在において3,534億円です。有利子負債については、削減に鋭意取り組んでいますが、金利変動リスクを有しているため、市場金利が上昇した場合には、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

6. 株価の変動

当社グループは、取引先を中心に株式を保有していますが、市場性のある株式においては、各種要因による株価の下落により、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループにおける年金資産は、株価水準の影響を受けるため、退職給付費用に変動が生じます。

7. 為替の変動

当社グループは、製品、原材料および燃料の輸出入取引において、為替変動の影響を受けることがあり、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

8. 事業再構築

当社グループは、企業価値の増大に向けて事業の選択と集中に取り組んでおり、この過程における一時損失が発生し、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

9. 訴訟

当社グループは、国内外で継続して事業活動を行う過程において、知的財産関連、環境関連等の訴訟を提起されるリスクを負っており、訴訟の内容によっては、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループでは、法令順守等のコンプライアンス経営に努めており、役員、従業員のコンプライアンス意識向上のために階層別に研修・教育を実施し、リスクの最小化に努めています。

10. 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症拡大による社会経済活動の停滞が継続した場合、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、「レンゴグループ新型コロナウイルス感染症統合対策本部」を立ち上げ、働く者の安全と健康を確保し、社会の一員として感染症拡大防止に最大限努めるとともに、生活必需品を消費者に届けるサポーティングインダストリーとしての供給責任を果たすよう鋭意取り組んでいます。

11. その他

当社グループは、上記の事項以外にも、予期せぬ事態によるリスクを負う可能性があり、これらの内容によっては、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

連結貸借対照表

レンゴー株式会社および連結子会社
(2022年3月31日および2021年3月31日)

	百万円		千米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	2022/3
資産			
流動資産:			
現金及び預金(注記5,7および9)	¥ 60,308	¥ 52,380	\$ 494,327
受取債権			
受取手形及び売掛金(注記7および17)	214,656	197,190	1,759,475
その他	2,259	2,221	18,516
貸倒引当金	(691)	(654)	(5,663)
	216,224	198,757	1,772,327
棚卸資産(注記6)	66,237	51,808	542,926
その他	7,443	6,030	61,008
流動資産合計	350,213	308,976	2,870,598
有形固定資産(注記9):			
建物及び構築物	296,063	272,573	2,426,745
機械装置及び運搬具	605,807	552,944	4,965,631
土地	125,462	118,608	1,028,377
建設仮勘定	12,269	8,750	100,565
その他	42,344	38,807	347,081
	1,081,947	991,684	8,868,418
控除-減価償却累計額	(697,914)	(624,590)	(5,720,606)
有形固定資産合計	384,032	367,094	3,147,803
無形固定資産:			
のれん	18,806	19,157	154,147
その他(注記9)	16,109	16,117	132,040
無形固定資産合計	34,915	35,274	286,188
投資その他の資産:			
投資有価証券(注記7,8および9)	139,366	136,172	1,142,344
長期貸付金	575	406	4,713
退職給付に係る資産(注記12)	3,168	3,159	25,967
繰延税金資産(注記11)	2,023	1,946	16,581
その他(注記9)	21,162	17,968	173,459
貸倒引当金	(1,114)	(1,006)	(9,131)
投資その他の資産合計	165,183	158,646	1,353,959
資産合計	934,345	869,992	7,658,565

添付の注記は、これらの連結財務諸表の一部である。

	百万円		千米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	2022/3
負債および純資産			
流動負債:			
短期借入債務および1年内返済予定長期借入債務(注記7,9および10)	¥ 119,158	¥ 114,616	\$ 976,704
支払債務			
支払手形及び買掛金(注記7および9)	129,484	112,897	1,061,344
その他(注記7)	17,291	21,487	141,729
	146,775	134,385	1,203,073
未払法人税等	6,183	7,483	50,680
役員賞与引当金	239	252	1,959
関係会社整理損失引当金	—	470	—
その他(注記17)	38,444	37,538	315,114
流動負債合計	310,802	294,747	2,547,557
固定負債:			
1年超返済予定長期借入債務(注記7,9および10)	223,641	206,324	1,833,122
繰延税金負債(注記11)	21,379	22,421	175,237
役員退職慰労引当金	649	635	5,319
役員株式給付引当金	409	208	3,352
退職給付に係る負債(注記12)	13,070	11,578	107,131
その他(注記7および9)	10,102	9,614	82,803
固定負債合計	269,254	250,782	2,207,000
偶発債務(注記13)			
純資産(注記14):			
株主資本:			
資本金:			
発行可能株式総数	800,000,000株		
発行済株式数	271,056,029株		
	31,066	31,066	254,639
資本剰余金	33,358	33,731	273,426
利益剰余金	238,185	215,899	1,952,336
自己株式:			
23,428,544株(2022/3)	(12,218)	(12,253)	(100,147)
23,471,185株(2021/3)			
株主資本合計	290,392	268,443	2,380,262
その他の包括利益累計額:			
その他有価証券評価差額金	31,739	35,787	260,155
繰延ヘッジ損益	—	0	—
為替換算調整勘定	15,830	5,394	129,754
退職給付に係る調整累計額	3,946	3,701	32,344
その他の包括利益累計額合計	51,516	44,883	422,262
非支配株主持分	12,379	11,136	101,467
純資産合計	354,289	324,463	2,904,008
負債純資産合計	934,345	869,992	7,658,565

連結損益計算書

レンゴー株式会社および連結子会社
(2022年3月期および2021年3月期)

	百万円		千米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	2022/3
売上高(注記17および18)	¥ 746,926	¥ 680,714	\$ 6,122,344
売上原価	611,210	547,432	5,009,918
販売費及び一般管理費(注記16)	102,436	93,342	839,639
営業利益(注記18)	33,279	39,938	272,778
その他の収益(費用):			
受取利息及び配当金	2,157	2,350	17,680
持分法による投資利益	2,274	2,632	18,639
支払利息	(1,605)	(1,670)	(13,155)
固定資産売却益	4,564	34	37,409
投資有価証券売却益	2,209	698	18,106
受取保険金	1,065	130	8,729
補助金収入	910	303	7,459
固定資産圧縮損	(911)	(302)	(7,467)
災害による損失	(711)	(227)	(5,827)
投資有価証券売却損	(610)	-	(5,000)
固定資産除売却損	(610)	(1,327)	(5,000)
関係会社整理損失引当金繰入額	-	(470)	-
その他	(574)	(885)	(4,704)
税金等調整前当期純利益	41,437	41,204	339,647

法人税等(注記11):

法人税、住民税及び事業税	12,167	12,672	99,729
法人税等調整額	34	(695)	278
法人税等合計	12,202	11,976	100,016

当期純利益	29,234	29,228	239,622
非支配株主に帰属する当期純利益	1,045	628	8,565
親会社株主に帰属する当期純利益	28,188	28,599	231,049

	円		米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	2022/3
1株当たり情報:			
1株当たり当期純利益	¥ 113.84	¥ 115.51	\$ 0.93
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	-	-
年間配当額	24.00	24.00	0.20

添付の注記は、これらの連結財務諸表の一部である。

連結包括利益計算書

レンゴー株式会社および連結子会社
(2022年3月期および2021年3月期)

	百万円		千米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	2022/3
当期純利益	¥ 29,234	¥ 29,228	\$ 239,622
その他の包括利益(注記15):			
その他有価証券評価差額金	(4,372)	12,252	(35,836)
為替換算調整勘定	7,793	(815)	63,877
退職給付に係る調整額	209	2,761	1,713
持分法適用会社に対する持分相当額	3,528	(1,769)	28,918
その他の包括利益合計	7,159	12,428	58,680
包括利益	36,394	41,657	298,311
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	34,865	40,978	285,778
非支配株主に係る包括利益	1,528	678	12,524

添付の注記は、これらの連結財務諸表の一部である。

連結株主資本等変動計算書

レンゴー株式会社および連結子会社
(2022年3月期および2021年3月期)

	千株 発行済 株式数	百万円									
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	非支配 株主持分	純資産合計
2020年3月31日残高	271,056	¥ 31,066	¥ 33,388	¥ 193,183	¥ (11,945)	¥ 23,655	¥ 0	¥ 7,887	¥ 1,017	¥ 10,565	¥ 288,820
剰余金の配当				(5,953)							(5,953)
親会社株主に帰属する 当期純利益				28,599							28,599
自己株式の取得					(812)						(812)
自己株式の処分			305		503						809
その他			36	69							106
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						12,132	0	(2,493)	2,683	570	12,893
2021年3月31日残高	271,056	31,066	33,731	215,899	(12,253)	35,787	0	5,394	3,701	11,136	324,463
剰余金の配当				(5,965)							(5,965)
親会社株主に帰属する 当期純利益				28,188							28,188
自己株式の取得					(1)						(1)
自己株式の処分			0		36						36
その他			(372)	63							(309)
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						(4,047)	(0)	10,435	245	1,243	7,877
2022年3月31日残高	271,056	31,066	33,358	238,185	(12,218)	31,739	—	15,830	3,946	12,379	354,289

	千米ドル(注記1)									
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	非支配 株主持分	純資産合計
2021年3月31日残高	\$ 254,639	\$ 276,483	\$ 1,769,663	\$ (100,434)	\$ 293,336	\$ 0	\$ 44,213	\$ 30,336	\$ 91,278	\$ 2,659,532
剰余金の配当			(48,893)							(48,893)
親会社株主に帰属する 当期純利益			231,049							231,049
自己株式の取得				(8)						(8)
自己株式の処分		0		295						295
その他		(3,049)	516							(2,532)
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					(33,172)	(0)	85,532	2,008	10,188	64,565
2022年3月31日残高	254,639	273,426	1,952,336	(100,147)	260,155	—	129,754	32,344	101,467	2,904,008

添付の注記は、これらの連結財務諸表の一部である。

連結キャッシュ・フロー計算書

レンゴー株式会社および連結子会社
(2022年3月期および2021年3月期)

	百万円		千米ドル(注記1)
	2022/3	2021/3	
営業活動によるキャッシュ・フロー:			
税金等調整前当期純利益	¥ 41,437	¥ 41,204	\$ 339,647
減価償却費	41,723	38,114	341,991
減損損失	81	13	663
のれん償却額	2,170	1,940	17,786
役員退職慰労引当金の増減額	(196)	(372)	(1,606)
退職給付に係る負債の増減額	492	762	4,032
受取利息及び受取配当金	(2,157)	(2,350)	(17,680)
支払利息	1,605	1,670	13,155
持分法による投資損益	(2,274)	(2,632)	(18,639)
投資有価証券売却損益	(1,598)	(698)	(13,098)
投資有価証券評価損益	102	(64)	836
有形固定資産売却損益	(4,410)	58	(36,147)
有形固定資産除却損	836	1,234	6,852
売上債権の増減額	(12,421)	(117)	(101,811)
棚卸資産の増減額	(10,298)	1,114	(84,409)
仕入債務の増減額	15,160	(2,175)	124,262
その他	(134)	1,489	(1,098)
小計	70,118	79,192	574,737
利息及び配当金の受取額	3,254	3,255	26,672
利息の支払額	(1,618)	(1,704)	(13,262)
法人税等の支払額	(13,859)	(14,743)	(113,598)
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,893	66,000	474,532

投資活動によるキャッシュ・フロー:			
定期預金の純増減額	16	90	131
有形固定資産の取得による支出	(46,216)	(39,553)	(378,819)
有形固定資産の売却による収入	381	411	3,122
無形固定資産の取得による支出	(1,739)	(1,455)	(14,254)
投資有価証券の取得による支出	(527)	(1,868)	(4,319)
投資有価証券の売却及び償還による収入	6,583	1,686	53,959
関係会社株式の取得による支出	(12,741)	—	(104,434)
短期貸付金の純増減額	(0)	(438)	(0)
長期貸付けによる支出	(118)	(75)	(967)
長期貸付金の回収による収入	224	313	1,836
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	(551)	(5,088)	(4,516)
その他	10	(29)	81
投資活動によるキャッシュ・フロー	(54,680)	(46,007)	(448,196)

財務活動によるキャッシュ・フロー:			
短期借入金の純増減額	(4,735)	973	(38,811)
長期借入れによる収入	36,459	45,439	298,844
長期借入金の返済による支出	(29,171)	(36,517)	(239,106)
社債の発行による収入	20,000	—	163,934
社債の償還による支出	(10,302)	(5,080)	(84,442)
自己株式の取得による支出	(1)	(812)	(8)
自己株式の売却による収入	36	809	295
配当金の支払額	(5,965)	(5,953)	(48,893)
リース債務の返済による支出	(3,358)	(2,864)	(27,524)
その他	(1,099)	(3,287)	(9,008)
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,860	(7,293)	15,245

現金及び現金同等物に係る換算差額	1,707	(202)	13,991
現金及び現金同等物の増減額	6,781	12,497	55,581
現金及び現金同等物の期首残高	50,099	37,528	410,647
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	953	—	7,811
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	74	—
現金及び現金同等物の期末残高(注記5)	57,835	50,099	474,057

添付の注記は、これらの連結財務諸表の一部である。

連結財務諸表注記

レンゴー株式会社および連結子会社

1. 連結財務諸表作成の基本となる事項

添付の連結財務諸表は、日本の金融商品取引法および関連する会計諸規則に従い、日本で一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠して作成されている。日本で一般に公正妥当と認められた会計基準は、国際財務報告基準における会計処理の適用方法や開示要請と異なる部分がある。

添付の連結財務諸表は、当社の連結財務諸表を組替え、英語に翻訳したものである（一部、記載事項を追加している）。当社の連結財務諸表は、日本で一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠して作成され、金融商品取引法に基づき財務省の所轄財務局に提出されている。補足的情報については、日本語の連結財務諸表に記載されている事項であっても、添付の連結財務諸表には記

2. 重要な会計方針の要約

(1) 連結

添付の連結財務諸表は、当社および重要な連結子会社（当社が議決権の過半数を所有している会社、あるいは、当社による支配が事実として存在する会社）167社（2021年3月期においては164社）から構成されている。連結子会社のうち、120社の決算日は12月31日であるが、連結決算日との間で生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っている。

非連結子会社および関連会社（当社が営業および財務の方針に対して重要な影響力を行使し得る会社）16社（2021年3月期においては16社）は持分法により処理される。従って、その投資額は取得日以後における未配分損益調整後の金額で計上される。

連結財務諸表作成に当たって、連結会社間の重要な取引、債権・債務および未実現利益は消去されており、非支配株主に帰属する部分については非支配株主持分に計上している。

当社の連結子会社に対する投資と連結子会社の資本の相殺消去に当たり、連結子会社の資産および負債は、非支配株主に帰すべき部分も含めて、連結子会社に対する支配を獲得した時点における公正価値に基づき評価されている。のれんは、効果の発現が見込まれる期間で均等償却している。ただし、その効果の発現が将来にわたって見込まれない場合は一時償却している。2010年3月31日以前に発生した負ののれんについては、引き続き均等償却している。

(2) 外貨換算

A. 外貨換算

外貨建金銭債権債務は期末日のレートで換算している。

B. 外貨建財務諸表の換算

海外連結子会社の貸借対照表は、資本金および資本剰余金を取得時レートで換算していることを除き、期末日レートで換算している。海外連結子会社の損益計算書は、当社との取引高を当社が使用するレートで換算していることを除き、期末日レートで換算している。

換算による調整額は純資産の部に含まれている。

(3) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込み額を計上している。

載していない場合がある。

日本円から米ドルへの換算は、2022年3月31日の実勢レート1米ドル=122円を使用しているが、これは日本国外の読者の便宜のためのみに行ったものである。これは便宜上の換算であって、円建金額が当該レートまたはその他のいかなるレートによっても、実際に米ドルに換金されていることを示すものではなく、将来換金できることを示すものでもない。

各勘定科目ごとおよび各勘定科目の合計額ごとに、それぞれ別個に日本円から米ドルへ換算を行っているため、換算後の各勘定科目を合計した金額と各勘定科目の合計額は一致しない。

(4) 有価証券

満期保有目的の債券は償却原価法で計上している。子会社株式および関連会社株式のうち、非連結および持分法非適用会社の株式については移動平均法による原価法で計上している。その他有価証券のうち市場価格のない株式等以外のものは時価で計上され、未実現損益は税効果控除後の金額を純資産の部に区分掲記している。市場価格のない株式等以外のものの売却損益は移動平均法により算定している。その他有価証券のうち市場価格のない株式等は移動平均法による原価法で計上している。

満期保有目的の債券、子会社株式および関連会社株式ならびにその他有価証券のうち市場価格のない株式等以外のものについて、時価が著しく下落し、回復する見込みがない場合、当該有価証券は時価で計上され、時価と帳簿価額との差額はその期間の損失として認識される。市場価格のない子会社株式および関連会社株式ならびにその他有価証券のうち市場価格のない株式等の実質価額が著しく下落した場合、当該株式を実質価額まで減額し、対応する金額は損失として認識される。このような場合には、時価または実質価額が、これらの有価証券の翌連結会計年度における期首帳簿価額となる。

(5) 棚卸資産

棚卸資産は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により評価されている。

原材料の原価は主として移動平均法によっており、その他の棚卸資産の原価は主として総平均法によっている。

(6) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は取得原価で計上されている。減価償却は、主として法人税法に規定する耐用年数に基づく定率法によっている。1998年4月1日以降取得した建物ならびに2016年4月1日以降取得した建物附属設備および構築物については、定額法によっている。

(7) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用目的のソフトウェアについては、無形固定資産の「その他」に含めており、利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却している。

その他の無形固定資産は、主として法人税法に規定する耐用年数に基づく定額法により償却している。

(8) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存簿価を零とする定額法によっている。

(9) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込み額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上している。

(10) 役員退職慰労引当金

一部の国内連結子会社については、役員退職慰労金に充てるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上している。

(11) 役員株式給付引当金

株式交付規程に基づく当社の取締役等への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込み額に基づき計上している。

(12) 投資損失引当金

関係会社に対する投資に係る損失に備えるため、財政状況等を勘案して、会社所定の基準により損失見込み額を計上している。

なお、2022年3月31日および2021年3月31日現在における同引当金は、連結貸借対照表上、投資有価証券からそれぞれ8百万円（65千米ドル）および56百万円直接控除している。

(13) 法人税等

資産・負債に係る帳簿価額と税務上の価額との間の一時差異について税効果を認識している。繰延税金資産および負債の認識に際しては、会計上の資産・負債と税務上の資産・負債との間の一時差異の将来回収見込み額を考慮し、資産負債法によっている。

(14) 退職給付に係る負債

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

連結会社は、期末における退職給付債務および年金資産の見込み額に基づき、退職給付に係る負債を計上している。数理計算上の差異は、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として13年）により翌連結会計年度から費用処理する。過去勤務債務は、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）により発生時の連結会計年度より費用処理する。

(15) デリバティブ取引とヘッジ会計

原則として、ヘッジ目的以外のデリバティブは時価で評価し、時価の変動は損益として認識する。

ただし、デリバティブがヘッジとして使用され一定のヘッジ要件を満たす場合には、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで、デリバティブの時価の変動から生じる損益の認識を繰延べている。しかし、先物為替予約がヘッジとして使用され、一定のヘッジ要件を充足する場合には、当該先物為替予約とヘッジ対象項目は以下のように処理される。

A. 外貨建債権または債務をヘッジする目的で先物為替予約またはオプション取引を行った場合

(a) ヘッジ対象の外貨建債権または債務を為替予約日の直物為替レートで換算した円貨額と当該外貨建債権または債務の帳簿価額との差額は、為替予約日を含む期の損益として認識される。

(b) 先物為替予約の割引額または割増額（すなわち、予約した外貨を予約レートで換算した円貨額と為替予約日の直物為替レートで換算した円貨額との差額）を為替予約の期間にわたり認識する。

B. 先物為替予約またはオプション取引が将来の外貨建取引をヘッジする目的で行われた場合には、当該取引は予約レートにより計上され、先物為替予約に係る損益は認識されない。

為替の変動をヘッジする目的で、為替予約または通貨スワップを行った外貨建債権債務は、ヘッジ会計が適用できる場合には振当処理を行っている。

ヘッジ会計が適用され特例処理が認められる金利スワップについては時価評価せず、スワップ契約に基づく支払額を利息の受払額に含めて認識している。

〔LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い〕を適用しているヘッジ関係）

上記のヘッジ関係のうち、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40条 2022年3月17日）の適用範囲に含まれるヘッジ関係のすべてに、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用している。当該実務対応報告を適用しているヘッジ関係の内容は、以下のとおりである。

ヘッジ会計の方法…金利スワップの特例処理

ヘッジ手段…金利スワップ

ヘッジ対象…借入金の利息

ヘッジ取引の種類…キャッシュ・フローを固定するもの

(16) 表示の組替

当連結会計年度の表示に合わせるために、過年度分について一部組替再表示を行っている。

(17) 1株当たり情報

1株当たり当期純利益は、普通株式の年間の平均発行済株式数に基づいて算定している。

なお、2022年3月期および2021年3月期において、潜在株式が存在しないため潜在株式調整後1株当たり当期純利益については記載していない。

1株当たり配当額は各連結会計年度に係る実際の配当額を表している。

(18) 収益および費用の計上基準

当社グループは板紙・紙加工関連事業、軟包装関連事業、重包装関連事業、海外関連事業およびその他の事業の各製品の製造、販売を主な事業とし、これらの製品の販売については製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、製品の引渡時点で収益を認識している。また、収益は、値引きおよび割戻し等を控除した金額で測定している。

製品の販売における役割（本人または代理人）が代理人として販売に関与している場合には、総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識している。

また、原材料を支給し、加工後の製品を買い戻した上で第三者に販売する有償支給取引について、支給先から受け取る対価を収益として認識していない。

約束された対価については、いずれも履行義務の充足時点から概ね3カ月で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれていない。

3. 重要な会計上の見積り

会計上の見積りは、連結財務諸表作成時に入手可能な情報に基づいて合理的な金額を算出している。当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目は以下のとおりである。

(1) のれんの減損損失の認識の要否

A. 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

海外関連事業に係るのれんには、ドイツに所在する連結子会社トライウォール・ヨーロッパ社（国際財務報告基準を適用）がトライコー・パッケージング&ロジスティクス社の支配を獲得した際に生じたのれんの帳簿価額10,114百万円（82,901千米ドル）（前連結会計年度9,877百万円）が含まれている。当該のれんにつき、国際財務報告基準に基づき年次の減損テストを実施し、減損損失の計上の要否について検討を行った。検討の結果、回収可能価額が帳簿価額を超えると判断したため、減損損失は計上していない。

B. 会計上の見積りの内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

国際財務報告基準を適用している在外子会社において、のれんを含む資金生成単位グループについては、減損の兆候がある場合に加え、毎期減損テストが実施され、回収可能価額が帳簿価額を下回る場合には帳簿価額を回収可能価額まで減額し、日本基準に基づく既償却額を控除した額を減損損失として認識する。なお、回収可能価額は使用価値により算定している。

使用価値の測定に用いる将来キャッシュ・フローは、トライコー・パッケージング&ロジスティクス社の事業計画およびその後の期間の永久成長率を基礎として見積っており、ドイツ国内の得意先に対する販売数量の増加および利益率の改善等を主要な仮定として織り込んでいる。

上記の仮定の効果の予測は高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。

(2) 固定資産の減損損失の認識の要否

A. 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

板紙・紙加工関連事業に含まれるRGコンテナ株式会社については販売数量の減少等により営業損益が継続的にマイナスとなっていることから、減損の兆候があると判断し、減損損失の計上の要否について検討を行った。検討の結果、当該事業について、割引前将来キャッシュ・フローの総額が固定資産の帳簿価額10,488百万円（85,967千米ドル）（有形固定資産10,458百万円（85,721千米ドル）、無形固定資産29百万円（237千米ドル））を超えるため、減損損失は計上していない。なお、前連結会計年度の固定資産の帳簿価額は10,620百万円（有形固定資産10,589百万円、無形固定資産31百万円）である。

B. 会計上の見積りの内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

減損の兆候があると認められる場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定する。判定の結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回り減損損失の認識が必要とされた場合、帳簿価額を回収可能価額（正味売却価額または使用価値のいずれか高い価額）まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として認識する。

RGコンテナ株式会社の将来キャッシュ・フローの見積りは、事業計画を基礎としており、関東地区における段ボールの需要動向、同社の生産体制の整備状況、当社からの生産移管による生産量増加等の計画を主要な仮定として織り込んでいる。

こうした施策の効果の予測は高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。

4. 会計方針の変更

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしている。

これにより、一部の取引に係る収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識していたが、顧客への財またはサービスの提供における役割（本人または代理人）を判断した結果、総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更している。

また、原材料を支給し、加工後の製品を買い戻した上で第三者に販売する有償支給取引について、従来は、支給先から受け取る対価を収益として認識していたが、当該収益を認識しない方法に変更している。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用している。

この結果、当連結会計年度の売上高は13,760百万円（112,786千米ドル）減少し、売上原価は12,065百万円（98,893千米ドル）減少し、販売費及び一般管理費は1,700百万円（13,934千米ドル）減少している。また、営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益、利益剰余金の当期首残高および1株当たり情報に与える影響は軽微である。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載していない。

(時価算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしている。

お、連結財務諸表に与える影響はない。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととした。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日）第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載していない。

5. キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は、手許現金、要求払預金および取得日から3カ月以内に満期日または償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資である。

2022年3月31日および2021年3月31日現在における連結貸借対照表上の現金及び預金と連結キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金同等物との関係は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
現金及び預金	¥ 60,308	¥ 52,380	\$ 494,327
控除：預入期間が3カ月を超える定期預金	(2,472)	(2,280)	(20,262)
現金及び現金同等物	57,835	50,099	474,057

6. 棚卸資産

2022年3月31日および2021年3月31日現在における棚卸資産は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
商品及び製品	¥ 32,063	¥ 25,858	\$ 262,811
仕掛品	5,117	3,773	41,942
原材料及び貯蔵品	29,056	22,176	238,163
合計	66,237	51,808	542,926

7. 金融商品情報

(1) 金融商品の状況に関する事項

A. 金融商品に対する取組み方針

当社グループは、設備投資および投融資計画に基づき資金計画を立案し、必要な長期資金（銀行借入または社債発行）を調達している。また、通常の事業活動において必要となる短期的な運転資金は銀行借入により調達しており、一時的な余剰資金は安全性の高い金融資産で運用している。デリバティブ取引は、当社グループにおいて、長期借入金では金利または為替相場の変動リスクを回避し、外貨建輸出入取引では為替相場変動リスクを回避するために利用し、投機目的の取引およびレバレッジ効果の高い取引は行わない方針である。

B. 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されている。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理において、取引先ごとに与信限度額を設け、債権管理を行っている。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式等である。これらは、市場価格の変動リスクに晒されているが、定期的の時価を把握しており、取引先企業との関係を勘案し保有状況を見直している。

営業債務である支払手形及び買掛金の支払期日は1年以内となっている。

なお、営業債権債務の一部に外貨建てのものがあり、為替変動リスクに晒されているが、実需の範囲内で先物為替予約取引をヘッジ手段として利用することがある。

資金調達については、短期借入金は主に営業取引に伴う資金調達であり、長期借入金および社債は主に設備投資や投融資に係る資金調達である。このうち長期借入金の一部については、変動金利または外貨建てであるため、金利の変動リスクまたは為替相場変動リスクに晒されているが、デリバティブ取引（金利スワップ取引または通貨スワップ取引）をヘッジ手段として利用している。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理および通貨スワップの振当処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略している。

デリバティブ取引の実行および管理については、当社では社内規程に基づき経本部が行っており、連結子会社ではこれに準じてリスク管理を行っている。なお、契約先は信用度の高い国内の金融機関であるため、相手先の契約不履行リスクはほとんどないと認識している。

また、営業債務や資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）は、月次の資金繰表を作成し、随時更新することにより管理している。

C. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することもある。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日および2021年3月31日現在における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、以下のとおりである。

	百万円			千円ドル		
	2022/3	2021/3	差額	2022/3	2021/3	差額
投資有価証券						
その他有価証券	¥ 81,215	¥ 81,215	¥ -	¥ 91,810	¥ 91,810	¥ -
関連会社株式	15,077	7,269	(7,807)	13,848	7,527	(6,321)
資産計	96,292	88,485	(7,807)	105,659	99,337	(6,321)
1年内償還予定の社債	5,061	5,069	7	10,030	10,042	11
社債	80,000	79,518	(481)	65,030	64,971	(58)
長期借入金（1年内返済予定を含む）	183,574	183,048	(526)	173,525	173,362	(162)
負債計	268,636	267,635	(1,000)	248,585	248,376	(208)
デリバティブ取引 ^{※3}						
(a)ヘッジ会計が適用されていないもの	0	0	-	(1)	(1)	-
(b)ヘッジ会計が適用されているもの	-	-	-	0	0	-
デリバティブ取引計	0	0	-	(0)	(0)	-

※1 現金及び預金、受取手形及び売掛金、支払手形及び買掛金、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金を除く）については、現金であること、および短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略している。

※2 市場価格のない株式等は、投資有価証券には含まれていない。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりである。

	百万円		千円ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
その他有価証券	¥ 3,208	¥ 3,079	\$ 26,295
子会社株式及び関連会社株式	39,865	27,432	326,762

※3 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（）で示している。

(注) 1 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後における償還予定額

	百万円			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	¥ 60,308	¥ -	¥ -	¥ -
受取手形及び売掛金	214,656	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券	-	-	-	120
合計	274,964	-	-	120

	百万円			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	¥ 52,380	¥ -	¥ -	¥ -
受取手形及び売掛金	197,190	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券	-	-	-	120
合計	249,570	-	-	120

	千円ドル			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	\$ 494,327	\$ -	\$ -	\$ -
受取手形及び売掛金	1,759,475	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券	-	-	-	983
合計	2,253,803	-	-	983

(注) 2 長期借入債務、リース債務およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	百万円					
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入債務	¥ 74,163	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -
長期借入債務	44,994	41,860	29,037	26,170	40,760	85,813
リース債務	3,333	2,721	1,900	1,187	627	820
その他	13	10	0	-	-	-
合計	122,505	44,591	30,938	27,358	41,387	86,634

	百万円					
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入債務	¥ 72,356	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -
長期借入債務	42,260	34,646	38,596	26,117	21,254	85,710
リース債務	2,805	2,415	2,075	956	485	926
その他	15	13	10	0	-	-
合計	117,436	37,075	40,681	27,074	21,740	86,636

	千円ドル					
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入債務	\$ 607,893	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -
長期借入債務	368,803	343,114	238,008	214,508	334,098	703,385
リース債務	27,319	22,303	15,573	9,729	5,139	6,721
その他	106	81	0	-	-	-
合計	1,004,139	365,500	253,590	224,245	339,237	710,114

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類している。

レベル1の時価:観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場により算定した時価

レベル2の時価:観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価:観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類している。

A.時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

区分	百万円			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
	2022/3			
	時価			
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	¥ 81,215	¥ -	¥ -	¥ 81,215
デリバティブ取引				
ヘッジ会計が適用されていないもの	-	0	-	0
資産計	81,215	0	-	81,216

区分	千米ドル			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
	2022/3			
	時価			
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	\$ 665,696	\$ -	\$ -	\$ 665,696
デリバティブ取引				
ヘッジ会計が適用されていないもの	-	0	-	0
資産計	665,696	0	-	665,704

B.時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	百万円			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
	2022/3			
	時価			
投資有価証券				
関係会社株式	¥ 7,269	¥ -	¥ -	¥ 7,269
資産計	7,269	-	-	7,269
1年内償還予定の社債	-	5,069	-	5,069
社債	-	79,518	-	79,518
長期借入金(1年内返済予定を含む)	-	183,048	-	183,048
負債計	-	267,635	-	267,635

区分	千米ドル			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
	2022/3			
	時価			
投資有価証券				
関係会社株式	\$ 59,581	\$ -	\$ -	\$ 59,581
資産計	59,581	-	-	59,581
1年内償還予定の社債	-	41,549	-	41,549
社債	-	651,786	-	651,786
長期借入金(1年内返済予定を含む)	-	1,500,393	-	1,500,393
負債計	-	2,193,729	-	2,193,729

(注)時価の算定に用いた評価技法および時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価している。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類している。

1年内償還予定の社債、ならびに社債

社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を、当該社債の残存期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類している。

長期借入金(1年内返済予定を含む)

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっている。固定金利によるものは、

一定の期間ごとに区分した当該長期借入金の元利金の合計額(※)を、返済期日までの期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類している。

(※)長期借入金のうち、金利スワップの特例処理または通貨スワップの振当処理によるヘッジ対象とされたもの(下記「デリバティブ取引」参照)については、当該金利スワップまたは通貨スワップと一体として処理された元利金の合計額。

デリバティブ取引

取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しており、レベル2の時価に分類している。金利スワップの特例処理または通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載している。

8. 有価証券情報

(1) 時価のあるその他有価証券の取得原価および帳簿価額(時価)

以下の表は、2022年3月31日および2021年3月31日現在における、時価のあるその他有価証券の取得原価および帳簿価額(時価)の要約である。

	百万円			千米ドル		
	帳簿価額	取得原価	差額	帳簿価額	取得原価	差額
	2022/3			2021/3		
	帳簿価額が取得原価を超える有価証券:			帳簿価額		
株式	¥ 72,493	¥ 24,522	¥ 47,970	¥ 84,510	¥ 30,391	¥ 54,119
債券	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
	72,493	24,522	47,970	84,510	30,391	54,119
	帳簿価額が取得原価を超えない有価証券:			帳簿価額		
株式	8,722	10,454	(1,732)	7,299	8,939	(1,639)
債券	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
	8,722	10,454	(1,732)	7,299	8,939	(1,639)
合計	81,215	34,977	46,238	91,810	39,330	52,479
	665,696	286,696	379,000			

(2) その他有価証券の売却額

2022年3月期および2021年3月期におけるその他有価証券の売却額は、それぞれ6,570百万円(53,852千米ドル)および1,686百万円である。また、2022年3月期および2021年3月期におけるその他有価証券の売却益は、それぞれ2,209百万円(18,106千米ドル)および698百万円である。2022年3月期におけるその他有価証券の売却損は610百万円(5,000千米ドル)である(2021年3月期は該当事項なし)。

9. 担保提供資産

2022年3月31日現在における短期借入債務(1年内返済予定長期借入債務を含む)2,238百万円(18,344千米ドル)、長期借入債務497百万円(4,073千米ドル)、買掛金373百万円(3,057千米ドル)およびその他1,061百万円(8,696千米ドル)に対する担保提供資産(工場財団分を含む)の要約は以下のとおりである。

	百万円	千米ドル
建物及び構築物	¥ 17,734	\$ 145,360
機械装置及び運搬具	23,075	189,139
土地	33,678	276,049
投資有価証券	2,348	19,245
その他	865	7,090
合計	77,701	636,893

10. 短期借入債務および長期借入債務

2022年3月31日および2021年3月31日現在における短期借入債務および1年内返済予定長期借入債務の内訳は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル	加重平均利率
	2022/3	2021/3		
短期借入債務	¥ 74,163	¥ 72,356	\$ 607,893	0.50%
1年内返済予定長期借入債務	44,994	42,260	368,803	0.56
合計	119,158	114,616	976,704	—

2022年3月31日および2021年3月31日現在における長期借入債務は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	
主として銀行および保険会社からの借入金			
(2022/3:0.05%～4.1%、2036/3までの分割返済、 2021/3:0.05%～4.1%、2035/3までの分割返済)	¥ 183,574	¥ 173,525	\$ 1,504,704
レンゴー株式会社 発行			
0.451% 無担保普通社債 償還期限2021年9月	—	10,000	—
0.498% 無担保普通社債 償還期限2022年9月	5,000	5,000	40,983
0.280% 無担保普通社債 償還期限2023年12月	10,000	10,000	81,967
0.270% 無担保普通社債 償還期限2024年12月	5,000	5,000	40,983
0.390% 無担保普通社債 償還期限2026年12月	10,000	10,000	81,967
0.210% 無担保普通社債 償還期限2026年12月	10,000	10,000	81,967
0.160% 無担保普通社債 償還期限2026年12月	10,000	—	81,967
0.410% 無担保普通社債 償還期限2027年12月	5,000	5,000	40,983
0.415% 無担保普通社債 償還期限2028年12月	10,000	10,000	81,967
0.300% 無担保普通社債 償還期限2029年12月	10,000	10,000	81,967
0.310% 無担保普通社債 償還期限2031年12月	10,000	—	81,967
株式会社金羊社 発行			
6カ月円TIBOR 無担保社債 償還期限2022年5月	31	—	254
三洋加工紙株式会社 発行			
6カ月円TIBOR 無担保社債 償還期限2023年3月	30	60	245
	268,635	248,585	2,201,926
1年内返済予定分を控除	(44,994)	(42,260)	(368,803)
合計	223,641	206,324	1,833,122

2022年3月31日現在における長期借入債務の1年ごとの返済期日は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	
2023/3	¥ 44,994	—	\$ 368,803
2024/3	41,860	—	343,114
2025/3	29,037	—	238,008
2026/3	26,170	—	214,508
2027/3およびそれ以後	126,573	—	1,037,483
合計	268,635	—	2,201,926

11. 法人税等

2022年3月31日および2021年3月31日現在における繰延税金資産および負債の主な内容は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	
繰延税金資産:			
税務上の繰越欠損金(注)2	¥ 6,061	¥ 4,669	\$ 49,680
退職給付に係る負債	3,653	3,235	29,942
未払賞与	2,975	2,876	24,385
ゴルフ会員権評価損	424	402	3,475
役員退職慰労引当金	279	206	2,286
投資有価証券評価損	1,025	997	8,401
貸倒引当金	258	215	2,114
固定資産未実現利益	274	279	2,245
未払事業税	433	501	3,549
減損損失	847	353	6,942
その他	2,109	2,135	17,286
繰延税金資産小計	18,343	15,872	150,352
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	(5,873)	(4,283)	(48,139)
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	(3,830)	(2,846)	(31,393)
評価性引当額小計(注)1	(9,703)	(7,130)	(79,532)
繰延税金資産合計	8,640	8,741	70,819
繰延税金負債:			
その他有価証券評価差額金	(14,126)	(16,040)	(115,786)
税務上の特定目的積立金	(3,469)	(2,875)	(28,434)
固定資産評価差額	(6,818)	(6,604)	(55,885)
商標権	(1,873)	(1,909)	(15,352)
その他	(1,707)	(1,785)	(13,991)
繰延税金負債合計	(27,995)	(29,216)	(229,467)
繰延税金資産(負債)純額	(19,355)	(20,474)	(158,647)

(注)1 評価性引当額が2,573百万円(21,090千米ドル)増加している。これは主に、新規の子会社を当連結会計年度より連結の範囲に含めた結果、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額1,087百万円(8,909千米ドル)および将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額1,149百万円(9,418千米ドル)が増加したことに伴うものである。

(注)2 税務上の繰越欠損金およびその繰延税金資産の繰越期限別の金額

	百万円						
	2022/3						
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※)	¥ 304	¥ 458	¥ 582	¥ 518	¥ 584	¥ 3,613	¥ 6,061
評価性引当額	(297)	(457)	(561)	(509)	(584)	(3,462)	(5,873)
繰延税金資産	6	0	20	9	0	151	187

	百万円						
	2021/3						
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※)	¥ 225	¥ 262	¥ 448	¥ 512	¥ 630	¥ 2,590	¥ 4,669
評価性引当額	(220)	(262)	(448)	(512)	(508)	(2,331)	(4,283)
繰延税金資産	5	—	—	—	121	259	386

	千米ドル						
	2022/3						
	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(※)	\$ 2,491	\$ 3,754	\$ 4,770	\$ 4,245	\$ 4,786	\$ 29,614	\$ 49,680
評価性引当額	(2,434)	(3,745)	(4,598)	(4,172)	(4,786)	(28,377)	(48,139)
繰延税金資産	49	2	163	73	2	1,237	1,532

(※) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額である。

12. 退職給付

2022年3月31日および2021年3月31日現在の連結貸借対照表に計上されている退職給付に係る資産、退職給付に係る負債ならびに2022年3月期および2021年3月期の連結損益計算書に計上されている退職給付費用の内訳は以下のとおりである。

(1) 確定給付制度

A. 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
退職給付債務の期首残高	¥ 48,195	¥ 45,643	\$ 395,040
勤務費用	2,966	2,865	24,311
利息費用	316	296	2,590
数理計算上の差異の発生額	29	117	237
退職給付の支払額	(1,283)	(1,254)	(10,516)
過去勤務費用の発生額	(3)	8	(24)
新規連結に伴う増加額	—	534	—
その他	29	(16)	237
退職給付債務の期末残高	50,250	48,195	411,885

B. 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
年金資産の期首残高	¥ 42,803	¥ 36,939	\$ 350,844
期待運用収益	613	537	5,024
数理計算上の差異の発生額	911	4,101	7,467
事業主からの拠出額	1,854	1,819	15,196
退職給付の支払額	(937)	(941)	(7,680)
新規連結に伴う増加額	—	346	—
その他	1	0	8
年金資産の期末残高	45,246	42,803	370,868

C. 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
退職給付に係る負債の期首残高	¥ 3,028	¥ 2,935	\$ 24,819
退職給付費用	663	475	5,434
退職給付の支払額	(240)	(155)	(1,967)
制度への拠出額	(203)	(211)	(1,663)
新規連結に伴う増加額	1,318	—	10,803
確定拠出年金制度への移行に伴う増加額	289	—	2,368
その他	41	(15)	336
退職給付に係る負債の期末残高	4,898	3,028	40,147

D. 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
積立型制度の退職給付債務	¥ 52,277	¥ 50,789	\$ 428,500
年金資産	(47,271)	(45,961)	(387,467)
	5,006	4,827	41,032
非積立型制度の退職給付債務	4,896	3,591	40,131
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,902	8,419	81,163
退職給付に係る負債	13,070	11,578	107,131
退職給付に係る資産	(3,168)	(3,159)	(25,967)
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,902	8,419	81,163

E. 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
勤務費用	¥ 2,966	¥ 2,865	\$ 24,311
利息費用	316	296	2,590
期待運用収益	(613)	(537)	(5,024)
数理計算上の差異の費用処理額	(449)	106	(3,680)
過去勤務費用の費用処理額	(117)	(116)	(959)
簡便法で計算した退職給付費用	663	475	5,434
確定拠出年金制度への移行に伴う損益（注）	289	—	2,368
確定給付制度に係る退職給付費用	3,056	3,089	25,049

(注) 退職給付制度改定損については、「その他」としてその他の費用に計上している。

F. 退職給付に係る調整額

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
過去勤務費用	¥ (114)	¥ (124)	\$ (934)
数理計算上の差異	417	4,094	3,418
合計	303	3,970	2,483

G. 退職給付に係る調整累計額

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
未認識過去勤務費用	¥ 332	¥ 446	\$ 2,721
未認識数理計算上の差異	5,428	5,010	44,491
合計	5,760	5,456	47,213

H. 年金資産に関する事項

(a) 年金資産の主な内訳

	2022/3	2021/3
債券	33%	34%
一般勘定	32	32
株式	29	28
その他	6	6
合計	100	100

(b) 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮している。

I. 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	2022/3	2021/3
割引率	主として 0.7%	主として 0.7%
長期期待運用収益率	主として 1.5%	主として 1.5%

(注) 主として採用している退職給付制度では、数理計算に当たって予想昇給率を使用していないため、予想昇給率の記載を省略している。

(2) 確定拠出制度

2022年3月期および2021年3月期における連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、それぞれ363百万円(2,975千米ドル)および290百万円である。

(3) 複数事業主制度

2022年3月期および2021年3月期における確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の企業年金基金制度への要拠出額は、それぞれ46百万円(377千米ドル)および46百万円である。

A. 制度全体の積立状況に関する事項

	百万円		千米ドル
	2022/3 (2021年3月31日現在)	2021/3 (2020年3月31日現在)	2022/3 (2021年3月31日現在)
年金資産の額	¥ 16,536	¥ 15,830	\$ 135,540
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	15,988	15,481	131,049
差引額	548	348	4,491

B. 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

2022年3月期(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) 3.8%

2021年3月期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日) 3.7%

C. 補足説明

上記Aの差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(2022年3月期△4,927百万円(△40,385千米ドル)、2021年3月期△5,435百万円)、別途積立金(2022年3月期5,844百万円(47,901千米ドル)、2021年3月期4,152百万円)および剰余金または不足金(2022年3月期△309百万円(△2,532千米ドル)、2021年3月期1,711百万円)である。

なお、上記Bの割合は当社グループの実際の負担割合とは一致していない。

13. 偶発債務

2022年3月31日現在における偶発債務は以下のとおりである。

	百万円	千米ドル
割引手形	¥ 20	\$ 163
裏書譲渡手形	170	1,393
債務保証	149	1,221

(注) 債務保証のうち58百万円(475千米ドル)については、当社の保証に対し、他社から再保証を受けている。

14. 純資産の部

日本の会社法は、株式の発行価額の全てを資本金とすることを規定している。ただし、会社は取締役会の決議により発行価額の2分の1を超えない金額を資本準備金として資本剰余金に含めることができる。

会社法は、配当金の10%または資本金の25%と利益準備金と資本準備金の合計額との差額のいずれか小さい金額を、資本準備金または利益準備金として積み立てることを規定している。添付の連結貸借対照表においては、利益準備金は利益剰余金

の中に含まれている。

資本準備金および利益準備金は配当の対象とはならない。会社法では、全ての資本準備金と利益準備金は、それぞれ、その他の資本剰余金、その他の利益剰余金に組み入れた上で配当することができる。

当社が配当金として分配することができる金額の上限は、会社法に従い、当社単体の財務諸表に基づき算定される。

15. 包括利益計算書

2022年3月31日および2021年3月31日現在におけるその他の包括利益に係る組替調整額および税効果額は以下のとおりである。

	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
その他有価証券評価差額金			
当期発生額	¥ (4,756)	¥ 18,212	\$ (38,983)
組替調整額	(1,547)	(694)	(12,680)
税効果調整前	(6,303)	17,517	(51,663)
税効果額	1,931	(5,264)	15,827
その他有価証券評価差額金	(4,372)	12,252	(35,836)
為替換算調整勘定			
当期発生額	7,793	(815)	63,877
退職給付に係る調整額			
当期発生額	869	3,981	7,122
組替調整額	(566)	(11)	(4,639)
税効果調整前	303	3,970	2,483
税効果額	(93)	(1,209)	(762)
退職給付に係る調整額	209	2,761	1,713
持分法適用会社に対する持分相当額			
当期発生額	3,528	(1,769)	28,918
その他の包括利益合計	7,159	12,428	58,680

16. 研究開発費

研究開発費は、一般管理費に含まれており、発生年度の費用としている。2022年3月期および2021年3月期において計上されている研究開発費はそれぞれ2,151百万円(17,631千米ドル)および1,900百万円であった。

17. 収益認識関係

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

百万円							
2022/3							
報告セグメント							
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他*	合計
日本	¥ 445,418	¥ 93,824	¥ 39,326	¥ 9,273	¥ 587,842	¥ 33,973	¥ 621,816
アジア	3,420	152	2,746	65,319	71,639	217	71,856
ヨーロッパ	—	—	14	45,246	45,261	—	45,261
その他	—	2	292	6,678	6,973	6	6,979
顧客との契約から生じる 収益を分解した情報	448,838	93,979	42,380	126,518	711,716	34,197	745,914
その他の収益	—	—	—	—	—	1,012	1,012
外部顧客への売上高	448,838	93,979	42,380	126,518	711,716	35,210	746,926

千米ドル							
2022/3							
報告セグメント							
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他*	合計
日本	\$ 3,650,967	\$ 769,049	\$ 322,344	\$ 76,008	\$ 4,818,377	\$ 278,467	\$ 5,096,852
アジア	28,032	1,245	22,508	535,401	587,204	1,778	588,983
ヨーロッパ	—	—	114	370,868	370,991	—	370,991
その他	—	16	2,393	54,737	57,155	49	57,204
顧客との契約から生じる 収益を分解した情報	3,679,000	770,319	347,377	1,037,032	5,833,737	280,303	6,114,049
その他の収益	—	—	—	—	—	8,295	8,295
外部顧客への売上高	3,679,000	770,319	347,377	1,037,032	5,833,737	288,606	6,122,344

※「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内における不織布、紙器機械の製造・販売、運送事業、保険代理業、リース業および不動産業を含んでいる。

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「2. 重要な会計方針の要約」(18) 収益および費用の計上基準に記載のとおりである。

(3) 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係ならびに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額および時期に関する情報

A. 顧客との契約から生じた債権の内訳および契約負債の残高

顧客との契約から生じた債権の内訳および契約負債は以下のとおりである。

	百万円	千米ドル
	2022/3	2022/3
受取手形	¥ 16,215	\$ 132,909
売掛金	198,410	1,626,311
顧客との契約から生じた債権	214,626	1,759,229
契約負債	306	2,508

B. 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、当初に予定される顧客との契約期間が1年以内であるため、残存履行義務に配分した取引価格の総額および収益の認識が見込まれる期間の記載を省略している。

18. セグメント情報等

(1) セグメント情報

A. 報告セグメントの概要

(a) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社グループは、「ゼネラル・パッケージング・インダストリー」=GPIレンゴーとして多様な包装ニーズに応えるために、板紙から段ボール箱までの一貫生産に加え、軟包装や重包装、そして海外へも事業領域を広げ、それぞれの事業領域において取り扱う製品について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している。当社はこれら事業領域別のセグメントを基礎として、「板紙・紙加工関連事業」「軟包装関連事業」「重包装関連事業」および「海外関連事業」の4つを報告セグメントとしている。

「板紙・紙加工関連事業」は、国内における板紙、段ボール、段ボール箱およびクラフトパルプの製造・販売を行っている。「軟包装関連事業」は、国内における軟包装製品およびセロファン製の製造・販売を行っている。「重包装関連事業」は、国内における重包装製品の製造・販売を行っている。「海外関連事業」は、海外における板紙、段ボール、段ボール箱、軟包装製品、重包装製品および不織布の製造・販売を行っている。

(b) 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当連結会計年度の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更している。

当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「板紙・紙加工関連事業」の売上高は10,701百万円(87,713千米ドル)減少し、「軟包装関連事業」の売上高は341百万円(2,795千米ドル)減少し、「重包装関連事業」の売上高は2,711百万円(22,221千米ドル)減少し、「その他」の売上高は4百万円(32千米ドル)減少している。また、セグメント利益に与える影響は軽微である。

B. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、注記2における記載と同一である。報告セグメントの利益は、営業利益に基づいた数値である。セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいている。

C. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額に関する情報

2022年3月期および2021年3月期におけるセグメント情報は以下のとおりである。

百万円								
2022/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他* ¹	調整額 ²	連結 財務諸表 計上額 ³
外部顧客への売上高	¥ 448,838	¥ 93,979	¥ 42,380	¥ 126,518	¥ 711,716	¥ 35,210	¥ —	¥ 746,926
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,664	478	3,386	4,135	10,664	27,242	(37,906)	—
計	451,502	94,458	45,766	130,653	722,380	62,452	(37,906)	746,926
セグメント利益	22,657	2,064	1,621	4,880	31,223	1,943	112	33,279
セグメント資産	672,007	92,315	48,790	200,441	1,013,554	39,754	(118,963)	934,345
その他の項目								
減価償却費	27,156	4,190	1,352	7,697	40,396	1,328	(64)	41,660
のれんの償却額	259	165	69	1,696	2,190	—	—	2,190
持分法適用会社への 投資額	717	—	—	50,160	50,878	978	—	51,856
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	35,781	5,733	1,341	5,233	48,088	1,527	(107)	49,509

百万円								
2021/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他 ^{*1}	調整額 ^{*2}	連結 財務諸表 計上額 ^{*3}
外部顧客への売上高	¥ 432,711	¥ 83,303	¥ 43,280	¥ 87,849	¥ 647,145	¥ 33,568	¥ -	¥ 680,714
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,907	173	3,108	4,241	9,431	26,309	(35,740)	-
計	434,619	83,476	46,389	92,090	656,576	59,877	(35,740)	680,714
セグメント利益	28,380	3,977	2,085	3,328	37,773	2,022	143	39,938
セグメント資産	649,680	77,804	46,534	177,150	951,169	37,451	(118,628)	869,992
その他の項目								
減価償却費	25,585	3,308	1,432	6,558	36,884	1,243	(50)	38,077
のれんの償却額	273	82	69	1,535	1,960	-	-	1,960
持分法適用会社への 投資額	691	-	-	45,539	46,230	916	-	47,146
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	33,527	4,579	1,351	5,368	44,825	2,403	(86)	47,143

千米ドル								
2022/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他 ^{*1}	調整額 ^{*2}	連結 財務諸表 計上額 ^{*3}
外部顧客への売上高	\$ 3,679,000	\$ 770,319	\$ 347,377	\$ 1,037,032	\$ 5,833,737	\$ 288,606	\$ -	\$ 6,122,344
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21,836	3,918	27,754	33,893	87,409	223,295	(310,704)	-
計	3,700,836	774,245	375,131	1,070,926	5,921,147	511,901	(310,704)	6,122,344
セグメント利益	185,713	16,918	13,286	40,000	255,926	15,926	918	272,778
セグメント資産	5,508,254	756,680	399,918	1,642,959	8,307,819	325,852	(975,106)	7,658,565
その他の項目								
減価償却費	222,590	34,344	11,081	63,090	331,114	10,885	(524)	341,475
のれんの償却額	2,122	1,352	565	13,901	17,950	-	-	17,950
持分法適用会社への 投資額	5,877	-	-	411,147	417,032	8,016	-	425,049
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	293,286	46,991	10,991	42,893	394,163	12,516	(877)	405,811

※1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内における不織布、紙器機械の製造・販売、運送事業、保険代理業、リース業および不動産業を含んでいる。

※2 2022年3月期および2021年3月期の調整額は以下のとおりである。

(a) セグメント利益の調整額112百万円 (918千米ドル) および143百万円は、セグメント間取引消去である。

(b) セグメント資産の調整額△118,963百万円 (△975,106千米ドル) および△118,628百万円は、セグメント間取引消去である。

(c) 減価償却費の調整額△64百万円 (△524千米ドル) および△50百万円は、セグメント間取引消去である。

(d) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△107百万円 (△877千米ドル) および△86百万円は、セグメント間取引消去である。

※3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(2) 関連情報

A. 製品及びサービスごとの情報

外部顧客への売上高	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
板紙	¥ 60,005	¥ 56,679	\$ 491,844
段ボール	39,376	43,156	322,754
段ボール箱	344,337	323,652	2,822,434
軟包装製品およびゼロファン	107,284	93,447	879,377
その他	195,921	163,777	1,605,909
合計	746,926	680,714	6,122,344

B. 地域ごとの情報

(a) 売上高	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
日本	¥ 622,828	¥ 591,942	\$ 5,105,147
アジア	71,856	54,535	588,983
ヨーロッパ	45,261	28,895	370,991
その他	6,979	5,340	57,204
合計	746,926	680,714	6,122,344

(b) 有形固定資産	百万円		千米ドル
	2022/3	2021/3	2022/3
日本	¥ 337,706	¥ 321,569	\$ 2,768,081
アジア	17,965	17,443	147,254
ヨーロッパ	23,336	23,265	191,278
その他	5,025	4,816	41,188
合計	384,032	367,094	3,147,803

C. 主要な顧客ごとの情報

2022年3月期および2021年3月期において、外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略している。

(3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

	百万円							
	2022/3							
	報告セグメント							連結 財務諸表 計上額
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	
減損損失	¥ -	¥ -	¥ 1	¥ 80	¥ 81	¥ -	¥ -	¥ 81

	百万円							
	2021/3							
	報告セグメント							連結 財務諸表 計上額
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	
減損損失	¥ -	¥ 6	¥ 5	¥ 1	¥ 13	¥ -	¥ -	¥ 13

	千米ドル							
	2022/3							
	報告セグメント							連結 財務諸表 計上額
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	
減損損失	\$ -	\$ -	\$ 8	\$ 655	\$ 663	\$ -	\$ -	\$ 663

「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内における不織布、紙器機械の製造・販売、運送事業、保険代理業、リース業および不動産業を含んでいる。

(4) 報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報

百万円								
2022/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	連結 財務諸表 計上額
のれん								
当期償却額	¥ 259	¥ 165	¥ 69	¥ 1,696	¥ 2,190	¥ -	¥ -	¥ 2,190
当期末残高	629	580	174	17,478	18,862	-	-	18,862
負ののれん								
当期償却額	18	1	-	0	20	-	-	20
当期末残高	48	6	-	-	55	-	-	55

百万円								
2021/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	連結 財務諸表 計上額
のれん								
当期償却額	¥ 273	¥ 82	¥ 69	¥ 1,535	¥ 1,960	¥ -	¥ -	¥ 1,960
当期末残高	888	745	244	17,354	19,232	-	-	19,232
負ののれん								
当期償却額	18	1	-	0	20	-	-	20
当期末残高	67	8	-	0	75	-	-	75

千米ドル								
2022/3								
報告セグメント								
	板紙・紙加工 関連事業	軟包装 関連事業	重包装 関連事業	海外 関連事業	計	その他	調整額	連結 財務諸表 計上額
のれん								
当期償却額	\$ 2,122	\$ 1,352	\$ 565	\$ 13,901	\$ 17,950	\$ -	\$ -	\$ 17,950
当期末残高	5,155	4,754	1,426	143,262	154,606	-	-	154,606
負ののれん								
当期償却額	147	8	-	0	163	-	-	163
当期末残高	393	49	-	-	450	-	-	450

「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内における不織布、紙器機械の製造・販売、運送事業、保険代理業、リース業および不動産業を含んでいる。

19. 関連当事者情報

2022年3月期において、連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引はない。

2021年3月期において、連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引は以下のとおりである。

種類	会社等の名称 または氏名	事業の内容 または職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
役員	佐藤 義雄	当社取締役	(被所有) 2.7	資金の借入	資金の借入	1,680百万円	短期借入債務 および1年内返 済予定長期借 入債務	910百万円
		住友生命保険(相) 取締役会長 代表執行役			借入金の返済	1,570百万円	1年超返済予定 長期借入債務	7,390百万円

(注) 上記取引の内容は、当社取締役である佐藤義雄氏が第三者(住友生命保険(相))の代表者として行った取引である。また、金利については、市場金利を勘案して合理的に決定している。

20. 追加情報

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

段ボール等の需要については、食品や通販・宅配向けが下支えとなり、新型コロナウイルス感染症による影響は軽微にとどまると仮定しており、当該仮定に基づき固定資産の減損等の会計上の見積りを行っている。

(株式報酬制度)

当社は、2020年6月26日開催の第152回定時株主総会決議に基づき、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、取締役(社外取締役を除く)に対し、信託を用いた株式報酬制度を導入している。

また、当社の委任型執行役員に対しても、本制度と同様の株式報酬制度を導入している。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託(以下、「本信託」という)が当社株式を取得し、当社が各取締役等に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役等に対して交付される、という株式報酬制度である。

なお、取締役等が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時である。

本制度にかかる会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号2015年3月26日)に準じている。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く)により純資産の部に自己株式として計上している。当連結会計年度における、当該自己株式の帳簿価額および株式数は、前連結会計年度809百万円、990千株、当連結会計年度773百万円(6,336千米ドル)、945千株である。

21. 後発事象

(1) 剰余金の配当

2022年5月13日に開催された当社の取締役会決議で以下の剰余金の配当が決議された。

	百万円	千米ドル
配当金 (1株当たり12円=0.10米ドル)	¥ 2,982	\$ 24,442

当該配当は2022年3月期の連結財務諸表に計上されておらず、取締役会が承認した会計年度において計上される。

(注) 2022年5月13日取締役会の決議による配当金の総額には、株式報酬制度にかかる信託口が保有する当社株式に対する配当金11百万円 (90千米ドル)が含まれている。

(2) 取得による企業結合

当社は、ドイツ中部ノルトハウゼンに本社を置く重量物包装資材メーカーであるティム・パッケージング・システムズ社の持分100%を取得することを決議した。同社の出資者（ドイツの独立系総合包装メーカーであるティムグループ）との間で持分譲渡契約を締結し、2022年6月30日に本件持分譲渡が完了した。

A. 企業結合の概要

(a) 被取得企業の名称およびその事業の内容

被取得企業の名称	ティム・パッケージング・システムズ社
事業の内容	重量物包装資材 (段ボール、木材包装・パレット、パルプ系・プラスチック系包装資材等) の製造・販売
事業の規模	総資産 71億円 売上高 266億円

(注) 2021年12月期の数値であり、当社の会計監査人の監査証明を受けていない。

(b) 企業結合を行った主な理由

ティム・パッケージング・システムズ社を新たにグループに加えることにより、製品ポートフォリオの拡充、供給体制の充実を図り、ドイツ周辺地域における重量物包装市場において幅広い包装ニーズに迅速に応えるためである。

(c) 企業結合日

2022年6月30日

(d) 企業結合の法的形式

現金を対価とする持分取得

(e) 結合後企業の名称

トライコー・パッケージング・システムズ社

(f) 取得した議決権比率

取得後の議決権比率 100%

(g) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の子会社であるレンゴー・ヨーロッパ社ならびに連結子会社であるトライコー・パッケージング&ロジスティクス社が現金を対価として持分を取得したことによるものである。

B. 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得原価および対価については、当事者間の守秘義務に基づき非開示とする。

C. 主要な取得関連費用の内容および金額

現時点では確定していない。

D. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

現時点では確定していない。

E. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

現時点では確定していない。

独立監査人の監査報告書(訳文)

レンゴー株式会社 取締役会 御中

監査意見

当監査法人は、レンゴー株式会社及び連結子会社の、日本円で表示されている連結財務諸表、すなわち、2021年3月31日及び2022年3月31日現在の連結貸借対照表及び同日をもって終了する各連結会計年度の連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書並びに重要な会計方針の要約及びその他の説明情報を含む注記について監査を実施した。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、レンゴー株式会社及び連結子会社の2021年3月31日及び2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

トライコー・パッケージング&ロジスティクス社ののれんの減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>レンゴー株式会社の連結貸借対照表において、海外関連事業に係るのれん17,478百万円が計上されている。連結財務諸表注記「3.重要な会計上の見積り(1)のれんの減損損失の認識の要否」に記載のとおり、これには、2020年3月期に連結子会社であるトライウォール社がドイツにおいて重量物包装事業を行うトライコー・パッケージング&ロジスティクス社の支配を獲得した際に発生したのれん10,114百万円が含まれている。</p> <p>トライウォール社は国際財務報告基準を適用しており、のれんを含む資金生成単位グループについては、減損の兆候があるときに加え毎期減損テストが実施され、回収可能価額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として認識される。なお、回収可能価額は、使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれかが高い方として算定される。</p> <p>当連結会計年度においてトライウォール社は、トライコー・パッケージング&ロジスティクス社ののれんの減損テストにおける回収可能価額として、使用価値を用いている。この使用価値の測定に用いる将来キャッシュ・フローは、経営者が作成した同社の事業計画及びその後の期間の永久成長率を基礎として見積もられるが、ドイツ国内の得意先に対する販売数量の増加及び利益率の改善等の計画には不確実性を伴い、これらの経営者による判断が将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。また、使用価値の測定に用いる割引率の見積りにおいては、計算手法及びインプットデータの選択に当たり、評価に関する高度な専門知識を必要とする。</p> <p>以上から、当監査法人は、トライコー・パッケージング&ロジスティクス社ののれんの減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、トライコー・パッケージング&ロジスティクス社ののれんの減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性を評価するため、主に以下の監査手続を実施した。なお、手続の実施に当たっては、監査の実施を指示しているトライウォール社の監査人から報告を受けた監査手続の実施結果について評価するとともに、当監査法人が追加手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <p>のれんを含む資金生成単位の減損テストにおける使用価値の測定に関連する内部統制の整備状況の有効性について評価した。</p> <p>(2) 使用価値の見積りの合理性の評価</p> <p>将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となるトライコー・パッケージング&ロジスティクス社の事業計画の作成に当たって採用された主要な仮定の適切性を評価するため、その根拠について経営者に対して質問したほか、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">過年度の事業計画とその実績との比較により、過年度の見積りの精度を評価した。ドイツ国内の得意先に対する販売数量の増加見込みに関する仮定について、外部機関による関連市場の将来予測と比較した。利益率の改善に関する仮定について、直近の実績と比較するとともに、事業計画に一定の不確実性を織り込んだ場合の将来キャッシュ・フローを独自に見積り、経営者による見積額と比較した。 <p>また、割引率について、トライウォール社の監査人が属するネットワークファームの評価の専門家を利用して、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">割引率の計算手法について、対象とする評価項目及び会計基準の要求事項を踏まえ、その適切性を評価した。専門家が市場データ及び仮定を用いて独自に算定した値との比較により、インプットデータの合理性を評価した。

R Gコンテナー株式会社の固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>連結財務諸表注記「3.重要な会計上の見積り(2)固定資産の減損損失の認識の要否」に記載のとおり、レンゴー株式会社の連結貸借対照表において、板紙・紙加工関連事業に属するR Gコンテナー株式会社の固定資産10,488百万円が計上されている。</p> <p>これらの固定資産は規則的に減価償却されるが、減損の兆候があると認められる場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定する必要がある。その結果、減損損失の認識が必要と判定された場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として認識される。</p> <p>R Gコンテナー株式会社は、販売数量の減少等により営業損益が継続的にマイナスとなっており、減損の兆候が認められることから、当連結会計年度において減損損失の認識の要否の判定が行われている。当該判定に用いられる将来キャッシュ・フローの見積りは、経営者が作成した同社の事業計画を基礎として行われるが、関東地区における段ボールの需要動向、同社の生産体制の整備状況、レンゴー株式会社からの生産移管による生産量増加等の計画の見積りには不確実性を伴い、これらの経営者による判断が将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。</p> <p>以上から、当監査法人は、R Gコンテナー株式会社の固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」の一つに該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、R Gコンテナー株式会社の固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性を評価するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <p>固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。その際は、R Gコンテナー株式会社の事業計画において前提としている関東地区における段ボールの需要動向、同社の生産体制の整備状況及びレンゴー株式会社からの生産移管による生産量増加の効果について、不合理な仮定が採用されることを防止又は発見するための統制に特に焦点を当てた。</p> <p>(2) 将来キャッシュ・フローの見積りの合理性の評価</p> <p>将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となるR Gコンテナー株式会社の事業計画の作成に当たって採用された主要な仮定の適切性を評価するため、その根拠について経営者に対して質問したほか、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">過年度の事業計画とその実績との比較により、過年度の見積りの精度を評価した。関東地区における段ボールの需要動向に関する仮定について、外部機関から公表された市場データ等と比較した。R Gコンテナー株式会社の生産体制の整備状況に関する仮定について、同社の生産責任者に対して質問するとともに、ロス率、クレーム件数その他の生産設備の稼働に関する各種指標の改善状況に照らして検討を行った。レンゴー株式会社からの生産移管に関する仮定について、会社別の移管数量の計画を閲覧し、直近の移管数量の実績と比較するとともに、同社の受注動向及び関東地区の工場の稼働状況に照らして検討を行った。

その他の記載内容

その他の記載内容は、統合報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及びその監査報告書以外の情報から構成される。その他の記載内容は、この監査報告書の日付より後に当監査法人に提供されることが予定されている。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

便宜上の換算

2022年3月31日をもって終了した連結会計年度の連結財務諸表の米ドル数値は、読者の便宜のみのために表示されているものである。当監査法人の監査は、円数値の米ドル数値への換算を検証することも含んでいる。当監査法人は、当該換算が連結財務諸表の注記1の基準に従って行われているものと認める。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

指定有限責任社員	公認会計士	武久	善栄
指定有限責任社員	公認会計士	城戸	達哉
指定有限責任社員	公認会計士	中村	武浩

日本、大阪
2022年7月15日

有限責任 あずさ監査法人

(注)本監査報告書は、「Integrated Report 2022」に掲載されている「Independent Auditor's Report」を翻訳したものです。

UD
FONT

 レンゴー株式会社

本 社 〒530-0005 大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー
TEL. 06-6223-2371 FAX. 06-4706-9909

東京本社 〒108-0075 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス
TEL. 03-6716-7300 FAX. 03-6716-7330

<https://www.rengo.co.jp>